
元凶

和藤渚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

元凶

【Zコード】

Z9949D

【作者名】

和藤渚

【あらすじ】

シャツフル企画・キャラクター原案・イヌズキノコストーリー：
和藤渚とある3人の教師のお話

この学校はどこかおかしい。

喫煙が発覚した生徒を見つければタバコを没収して自分の物にするし、

いじめを発見すればいじめられている人を怒るし……

とにかくにか全てが根本的におかしい。

それが、俺が通つてる葉区欧学院。

学校の名前からしてもうおかしい。

言つておくがどこかの某マンガ・アニメと名前は似てゐるが決してとある執事のコンバットバトルストーリーではないのでお間違いなく――！

うちの学校はこの地区では有数の名門校と言われ倍率も高い。もちろん合格すれば鼻も高いし、優越感に入り浸れる。

そして毎年希望と不安に満ち溢れて入つてくる新入生。その顔が歪んでいくのもそう短くはなかつた。少なくとも俺は……

「おら、始めんぞ」

とやる気のなさそうに入つてくる男。

俺のクラスの担任、陽上日ひのぼりわたるのひのぼりわたるお出ましだ。担当は体育。

茶髪で髪は短く、日焼けした肌にソフトマッシュ。教師とはとても思えない風貌である。それがまたイラつぐ。

「荒木、伊野、浦田……」

頭をポリポリかきながら面倒くさそうに出席をとる。

出席を取り終えると

「え、実は笛岡のリコーダーがなくなつたそうだ。みんな知らないか？」

「陽上先生！－！ 何リコーダーが無くなつたくらいで慌ててゐるんですか」

「わけのわからんやつが来た－－－－－！」

「こいつは霧原零。きりはらしづか 3年のクラスを受け持つ美人英語教師（自称）。肩までかかる長い髪に大粒な瞳、透き通るような真つ白な肌。まあ確かに割と男子生徒に人気があるほうだと思う。」

「私のクラスはね井原さんに痴漢にあつたのよ！－！」

「と指を刺して決まつたといわんばかりのシタリ顔。

何その顔すつげームカつくんだけど？ てか何張り合つてんの！－－！」

「え？ あの井原先輩が？」

井原とは3年いやこの学校のアイドル的存在の人。

「そうですか」

とあしらう様に話を進めていく。

そしてものすごい重苦しい空気。

「あれ？ スベッた？ やらなきや良かつた……だつて……」

なにやら小声でぶつぶつと呴いていた。

「陽上先生！－！ 霧原先生！－！」

また何か変なのがきた－－－－－－－！

金髪に少しリーゼントの髪型に紋付袴の外国人。

なんですか？ あなたは？ どこの荒れた成人式ですか？

この人はビリー・ハンソン。アメリカ人である。

担当はもちろん英語……と思ひきやなぜか日本史なのだ。

「リリーダー紛失？ 痴漢？ 一人とも甘いです！－！」

なんだ？ もつとむごいことでもされたのか？

「うちのクラスの関根さんは昨日家で右足の小指をテーブルにぶつけて骨折れたんですよ！－！」

地味にくるな……それ……

関根は今年の1年の中で人気がントツ1位で最も井原を脅かす存在。そして関根、笠原、井原は葉区欧学園三大美女として名を轟かせて

いる。

ビリーはというシタリ顔。

だからなんなんだよ！！！ その顔！！！

「リコー・ダ・紛失なんて軽いもんよ。実はな林の親が昨日……」
え？ 僕？ 僕の親がどうしたつて？

「交通事故で……亡くなつた」

と涙をこらえてなにかやりきれないという様な言い方で

「そうだつたの？」

「可哀想に……」

と泣く2人。

「死んでねえよ！！！ 何勝手に人の親殺してんだよ！！！」

ちつと舌打ちをする陽上。

ホントにこいつら殴つていいですか？

お気づきの方も多いかも知れないがこれがこの学校をおかしくしている元凶なのだ。

3人いればなんとやらといふことわざがあるがこの3人の場合は意味とは程遠い。物事をややこしくするスペシャリストと言つても過言ではない。

「でも服部くんなんか彼女にフられたショックで自殺したんですよ

！！！」

そんな重いことを自慢げに言うな！！！

「フィツ・シユ竹 さんなんかトイレの精になつたですよ！！！」

なんだよ！！！ パクリじゃねえか！！！

「みんな目が死んでるんですよ？」

だからパクルナつて！！

次々と自分のクラスの生徒の不幸な自慢（捏造も含む）をしていく3人。

「これじゃ埒^らが開かないわ。ビニが一番ついてないクラスか勝負しましようよ」

とまた話が変な方向に進んでいく。

てかなんかもらつた設定と違つてねえ～？

特に霧原が一番原案と違つてる……

てかお前らちやんと授業しりよーーー！

「まあ設定なんて後でどうにかなるんじやねえ～？」

と言つ陽上。

でた～樂觀主義

ナイスだよ？ 陽上先生。

てか俺、心読まれてねえ？ この人エスパー？

「設定なんて……設定なんて～～～！」

と涙ながらに走つていく霧原。

どうしたの？ 急にどこいくの～？

「設定なんて無視して書きたいように書けばいいんだよ」

ビリーは諭すよつにそう言つた。

ダメだから～～～ せっかく送つてくれたイヌズキノネ口さんに失礼だから～～～ それにそれだとこの企画の意味無くなつちやうから～～～！

「こじけるぜ」

設定での口癖をつまく言い換えるなよーーー ボキャブラ 国か！

！！

本当にすいません……いろんな意味で……

「おい、林？ てか多くね～？ どんだけ話を切り替えてんだよ？」

と言つ陽上。

お前だけにはツッコまれたくはなかつたよ……なんかスゲー敗北感を感じたような

てなわけでどのクラスがついてないかとまあめりやくめりやくづつでもいい戦いが始まった。

「てなわけで始まりました。ウチのクラスついてない選手権」

3人もなぜかゼツケンをつけてるし

陽上は赤霧原は青ヒーリはオレンジである

TV チャンネルですか？ これは

「ではまず第一回から並んでお話を。」これは、エニカメンエの組み合せを決めてこのと同時にどれだけいいといかないかを競います。」

「野球じやーー！」

とにかくともなく現れたのは……誰?

「なんで野球なんですか？」

「それでは、昔からいじつこのは野球で決着つけぬことをあつてゐるのじゃよーー。」

そ二なの?

「元校長じやー

元つてどういうこと?

実況の人によると元を強調していた。

「よろしくお願いします」

「まず植草さんは昨日痴漢してつかまつたんですね？」

「いや痴漢なんかしてません！！！ ウチの高校の生徒のお尻を触つただけです。それを見なのにみんな痴漢呼ばわり本当にウンザリです！！」

それを痴漢って言うんですよ！元校長先生……

「ちなみになんで触つたんですか？」

「いや自分好みの制服がだつたから
なに？ それ！！ それなら女子の制服つて校長のショミだつたの
！！！？」

「えうじゅな。森君」

「林です！！」

「そりかリンくん」

「はやしです」

「あ～ハヤシライス食べたいね？」

「こいつ絶対名前覚える気ね～な……」

そう考えると井原先輩が痴漢に遭つたつてのは……

「そりわじゅ」

と元校長はシタリ顔。

もうソシッコム氣力もねえよ……

ほんといじりでちくめつりをこや読者をなめてるだり……

はあ……

とこいつうわけでなぜか始まつた野球。

俺たちのチームはシードで

まず、ビリーと霧原のクラスが戦うことになる。

霧原のクラスのベンチを見てみるとなぜかテルテルボウズを田にも
留まらぬ

速さで作つてゐる霧原がいた。

「すうじいです、1秒に5個つくりでいます！！！」

「すげー！！ あんな速さでテルテルボウズ作れんの……？」

てかなんでテルテルボウズとかつくりてるわけ？

「いや私、こいつ時つて大体雨降るからこいついう得技ができるや
つて」

そんな得技要らねえよ…… どんだけ雨女なんだよ……！

「仕方ないじやない。そりう設定なんだから」

もつ向も言こません…… 本当にめんなさいいぬづくのねん

「謝るならちゅんと謝れよ…… なんで噛んでだよ……！」

と罵る陽上。

だから……あつすいません。だからなんで俺の「口の声がわかるんだろ？」

なんか怖くなつてきた

「はい！ 10ポイント」

と実況がいきなり叫びだした。

え？ 試合前に点数入っちゃつたよ……

なにこれ？ 内 プロデュース？

「何としてでもついてない選手権優勝するぞ…… みんなはじける！」

「先生……暑苦しいです……」

「なんか異様に汗臭いし……」

燃えているビリーを尻目にやる氣のない生徒たち。そんな中スター テイリングメンバーが発表された。明らかに勝ちに行くメンバーである。

しかしひとつ氣になることが……

「なんだい？ 林くんいつてみなさい？」

と実況の人が声をかけてきた。

「なんで担任がエースで4番なんですか？ ふつうにいる生徒達がやるものですよね？」

「あ、そのクラスにいる人なら誰でもOKなんですね」

「そりなんだ」

「霧原先生？ どうしよう。ビリー先生が試合出でる」

「心配ないわ。ちゃんと秘策はあるから」

冷静に答えた。

（ビリー先生の弱点なんでお見通しよ）

「こいつら勝つ氣なんだ？」

「霧原の秘策とは……」

「1番 センター 野上さん」

「2番 セカンド 吉本さん」

「3番 ショート……」

「9番 ピッチャー 井原さん」

スター・ティーン・メンバ―は全て女子。

「全員女子で大丈夫なんですか?」

「大丈夫」

確かに勝負に勝つには弱点を突くのが一番いい。
何を隠そうこのビリー・ハンソンは女性に弱い。
てなわけで堅くなつたビリーはポカスカ打たれ5回を投げて10失
点、2三振で降板。

ビリーはボロボロだつた。

「出すには早かつたが、俺の秘密兵器だ」

「ビリー監督動きました」

自分の打席で代打をだした。

「4番、ビリーに変わりまして光源氏」

光源氏!!!!? なんで現世に? しかも架空の人物なのに・・・
もしかして・・・

「ローラースケートでやつてきました!!!! 光源氏」

やつぱり・・・

予想通りのボケで登場しました。突つ調べむきでしようか?

「ここはあえてツッコミません

「お~つとコケました。しかしだよつていう風にシタリ顔。
かつこ悪い! かつこ悪いです!」

.....

光源氏がはいつてからやる気の無かつた生徒は奮起し、追い上げて
8回終わつて12-9と霧原のクラスの3点リード。

9回の裏でビリーのクラスが満塁にしたが結局そのまま逃げ切り霧
原のクラスが勝ちあがつた。

そして俺たちのクラスとの対決。

陽上が

「1番 サード 末丘^{まつおか}」

「2番 レフト 伊野

「3番 セカンド 白石

「4番 ピッチャー 春木」

春木？ 春木って言う人ウチのクラスにいたっけ？

「先生？ 春木ってウチのクラスにましたっけ？」

当然の質問をぶつけて見た。

「あ～春木代美だけど？」

春木代美つてまさか……

「四ノ宮学園からヘットハンティングしてきた」

やつぱり

俺は頭を抱えた。

「なに勝手に他の人の作品のキャラクターを登場させてるんですか？」

「なんだ？ 許可つて？」

……たつた今、陽上旦という人物は犯罪者になりました。

「春木さんのことです。イヌズキノネコ先生の作品にててくるキャラクターでしょ？ ちゃんとイヌズキ先生に許可とつてください」「許可とらないといけねえ～か？」

「当たり前だ～！」

「細かいこと気にすんなつて」

「気にしろよ～！」「レは立派な犯罪だぞ～！」

「そなんだ？」

こいつが教師やつてることが信じられない

そして春木さんを見るとなんか変なことをやつてている

なんだろ？ とりあえず聞いてみた。

「なにやつてるんですか？」

「アニ 浜口が考案した笑つて健康になる体操

「あなたもやらない？」

「絶対にやりません」

「なんで？」

「こんな恥ずかしい」とできるわけないでしょ……」

「だつて、ほり」

と春木さんが指を刺すほつをみると

みんなやつてる――――――

春木さんに田を戻すとシタリ顔。

疲れてきた。マジでなんかやたらと長いし、話先進まないし、グダグダ感丸出しだし……

いつまで続けんだろう?

ということどりあえずやつと最終ラウンド

一回の表何気にいいピッチングをする春木さん。どちらも無得点。そんな中やたらと俺たちの試合見ながらにか不安そうにウロウロする人がいた。

それに気づいた霧原は

「どうしたんですか?」「

「あの人困つてるっぽいかり」と駆け寄る。

「……はどうですか?」「

「ここをまっすぐいって右に曲がってください」道を教えたところでベンチに戻る。

「えへん、ママ~

「ゴメンね。この子の母親探してくるから後お願ひ」
おい―― 言いだしつペが抜けてんじゃねえよ――

「こんな子供ほつとけないでしょ?」「

と子供が通りかかるそれに気づいた霧原は子供の母親を探しに行つた。

てか設定にあるからつてこれ、無理やりすぎむだろ――

そしてなんだかんだで試合は進んで0・0で迎えた9回裏2死満塁

カウント2ストライク3ボール

緊張の一瞬……

キーンローンカーンローン

「チャイム、なつたな」

「ああ。もうこんなのもつやめだ。俺が悪かった」

「いいえ？ 陽上先生僕こそ言ひすぎました」

なぜか和解成立。

「ところで霧原先生は？」

と陽上が聞くと同時に霧原が泣きながら子供を連れて戻ってきた。

「どうした？」 霧原

「どうしたんですか？」 霧原さん

「私……私……この子を育てます……！」

もうイヤ……こんな学校……

キャラクター原案

【キャラクター1】

名前：陽上 旦

性別：男

長所：挫ける事のない精神、樂觀主義

短所：つまらなさそうな顔を見るとイライラしてしまう事、後先考えず行動してしまう事

容姿：茶髪、ショートヘア、日焼けした肌、いい感じに肉付きした体

特技・性質：彼の行く所は9割方『晴れ』という典型的な晴れ男。アグレッシブな行動をとるため、身体を動かす事が得意（好き）。また人をやる気にさせるのも得意である。

【キャラクター2】

名前：霧原 雪

性別：女

長所：冷静沈着、困っている人を見るといい助けなくなってしまう優しさ

短所：失敗を引きずってしまう事、（小さな声で呟く感じの）独り言が多い事

容姿：肩にかかるくらいまで伸びた黒髪、真っ白な肌、大粒の瞳
特技・性質：彼女の行く所は9割方『雨』という稀に見る雨女。そのせいで、てるてる坊主を作るのが得意。基本的に手先が器用なので、他にも料理や絵を描くのも得意である。

【キャラクター3】

名前：ビリー

性別：男

長所：熱血漢、己に厳しく他人に優しい所

短所：時々空気が読めない、女性に弱い

容姿：金髪、（軽い感じの）リーゼント、服装のほとんどが袴で時々……甚平？

特技・性質：事を大げさにしてしまう破天荒な人間。口癖は『しびれるぜ』と『はじける！』。外国人でありながら、得意科目は日本史。尊敬する人は“光源氏”だそうだ。

これが原案です。そしてこれがぼくが出したキャラクターです
林・・・この物語の主人公。担任が陽上。ツツコミ役
春木代美・・・これは、イヌズキノネコ先生の作品「矢代和樹の多忙なる生活」のヒロインです。ちょっと抜けたところがあつてかわいいですよ～～勝手ながら出演させていただきました。

キャラクター原案（後書き）

ところが、どういふかがだつたのでしょうか？

いきなりですが反省します・・・

イヌズキノネコ先生本当に申し訳ございませんでした！――――

キャラを見て「メテイー」にしようつづてのが間違いだつたのかもそれません。

設定とみんなかけ離れてる上に、代美ちゃんを無許可で勝手に出す始末・・・やりたいことをやりすぎてホントに酷くなつてしましました・・・

本当にちづけませんでした！――そして今回楽しく書かせていただきました。本当にありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9949d/>

元凶

2010年10月9日01時25分発行